

主 題：主のために働くのは誰か
聖書箇所：マタイの福音書 9章35－38節

この10月は宣教月間として、私たちが支援する宣教師の働きを特に覚えて祈ります。それによって、私たちもこの働きに参加できるからです。福音がさらに世界中に広がってゆくように祈ってゆきましょう。私たちは自分が世界宣教の一端を担っていると知ることは感動的でわくわくすることです。

今日はマタイ9：35-38を通して宣教について学んでゆきましょう。

9：35で、イエスがこの地上でどのような働きをされたかを見ることができます。

(1) 町や村を巡って会堂で教えた。

神のみことば、神のメッセージを教えました。

(2) 御国の福音を宣べ伝えた。

イエス・キリストがまことの王であり、主であり、この方に従うようにという悔い改めのメッセージ、すなわち、救いのメッセージです。伝道されたのです。

(3) あらゆる病気、わずらいを直された。

癒しのわざです。これはイエスが神であることを人々に明らかにされるためであり、イエスが語るメッセージが真実であることの証明です。

9章に続く10章で、イエスは12弟子を派遣されます。それまではイエスだけが働いておられましたが、このイエスの働きを弟子たちが継承してゆくのです。弟子たちは働きを託されるのです。そのための大切なカギが9：36-38に教えられています。これは私たちにも同様です。私たちが伝道し、人々にみことばを伝えてゆくとき、覚えるべき大切なことなのです。それは、神のお心を知ることです。これを忘れてはいけません。

☆神のお心とは、

1. あわれむ 36節

イエスが「群衆を見て」とありますが、これは、多くの人々が間違った選択をしている、正しい羊飼いに従っていない、と見られたのです。羊飼いという例えをもって、群衆の霊的状态を説明しようとしています。羊飼いの務めは、羊の世話をし守ることです。神は大牧者です。小牧者である教会の牧師・長老の上におられる方です。

● 神である大牧者の働きは、

(1) クリスマンを悪より守ってくださること

(2) クリスマンが天に入るようにその道を備え守ってくださること

(3) クリスマンが日々の生活においてみことばに従ってゆくように助け励ましてくださる

羊を任されている小牧者も同様です。みことばをもって羊を導いてゆきます。正しい羊飼いは羊のことを

考えます。その必要を満し導いてゆきます。そして、羊のためにいのちを捨てます（ヨハネ10：11）。しかし、間違った羊飼いは、自分のことしか考えません。イエスは群衆は間違った羊飼いに従っていると見られたのです。

● 霊的に神に逆らった状態にある彼らを、イエスは

・かわいそうに思われました。

彼らのその心の状態を見られてかわいそうに思われたのです。「かわいそう」とは、同情、あわれみという意味以上に、内臓＝肺臓、肝臓、心臓、腎臓＝ということばから出て来ています。当時の人々は内臓こそ感情の座であるとしていたからです。うわべだけでなく、心の底から群衆を見た、その思いなのです。ヘブル4：15には「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。」とあります、そのとおりです。

・そして、この「かわいそう」はギリシャ語にいくつかある「かわいそう」のことばのうち、一番強いことばです。感じるだけでなく、その苦しみを取り除きたいという思いです。イエスの何とかして群衆を助けたいという強い思いを込めたことばなのです。

私たちは聖書から確信を得ます。イエスこそ救い主であることを。マタイ 11:28「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」と、イエスは人々に目を留めておられたのです。人々が間違っているゆえに悪い状態にあることをあわれまれたのです。そして、間違った羊飼いに従っているなら、次のような不幸があると云います。

●間違った羊飼いに従うことは、

(1) 平安も本当の満足もない 36 節

・ 弱りはててとは、皮をはぐ、皮膚を擦りむく、という意味から、引き裂く、切り刻む、という意味をもち、悩ますとか、苦しむ、煩わす、という状態を現わします。ある神学者は、無慈悲な人に苦しめられている人、果てしない旅に疲れ果てている状態と云います。神に逆らっている者の悲惨な姿、それは不安ばかりです。

・ 倒れるとは、地面に投げ捨てられる、下に投げることで、まったくの無力、見捨てられて横たわっている状態です。

私たちが救われる前はこのような状態でした。ヨハネ 10:10 に「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」とあるとおり、イエスは私たちに本当の満足をもって生きようと言われるのです。3%にも満たないこの日本の国のクリスチャン人口、その中で私が救われたことは、それがどれほどの祝福の中にあるのかを覚えたいものです。

(2) 永遠のさばき 37 節 b

「収穫」とはここでは人々のことです。多くの人々は救いを受けていないから、神に逆らっているゆえに祝福もなく、永遠のさばきがあるのだと、と云います。マタイ 13 章には種まきの例えがありますが、40 節には「ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。」と終わりがあると云われています。2 テサロニケ 1:7,8 には「苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現われるときに起こります。そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。」と書かれています。

イエスは人々をあわれまれました。私たちはこの神のお心をしっかりと知る必要があります。99.7%のこの国の人々は地獄に向っているのですから…。

2. 明渡し 37-38 節

自分のすべてを神に明渡した人を神は求めておられます。「働き手が少ない」というのは、神は救われた者を用いて、この救いのメッセージを伝えようとされます。これが神のご計画であり神のみこころなのです。福音を伝えるために神は私を用いようとされます。ですから、38 節の祈り「収穫のために働き手を送ってください」を教会は忘れてはいけません。そして、「神さま、どうか私を使ってください」と願うのです。「収穫の主」というのは収穫は神のものだということです。収穫のための働き手は神の目にかなった人、これが神の望まれることです。私自身がそのような者に変えられること、そして、私を用いてくださいと、これが私たちの応答であるべきです。

神はどのような働き人を求めておられるのでしょうか？「主よ、どうぞ私を使ってください」と願う人です。神のみことば、救いのメッセージを人々に伝えること、それが私の願いであるはずで、そのように決心し、神に委ねることです。

これらの神のお心を私自身のものとする、それがこの地上を歩む私たちの務めです。